
冗談依存症

百（難しい童話）

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

冗談依存症

【コード】

N3308Z

【作者名】

百（難しい童話）

【あらすじ】

職場に、冗談ばかりをよく言う奴がいる。だけど、そいつが冗談ばかりを言うのは、もしかしたら…

職場に、冗談ばかりをよく言う奴がいる。仕事は真面目に普通にこなすけど、皆が集まるような場面になると、必ずいつも冗談を言う訳だ。まあ、ひょうきんものとか、そういうキャラクター。で、それなりに笑いを取っている。こいつの悪い所は、調子に乗り過ぎる点。皆が笑うと興奮して、更に笑いを取ろうとハツスルするって感じ。酷い時には、誰かから注意を受けたりして。

もっとも笑いが取れないとその反対に、酷く落ち込み小さくなるのだけだ。

俺はこいつを冗談依存症だと思っている。一種の脳内分泌物質ジヤンキー。もちろん、本当は病気でも何でもない。

人間の脳は、他者の反応を見て、様々な物質を分泌する。その内の一つに、アドレナリンがある。このアドレナリンが分泌される状況は様々にある訳だが、自分の冗談で他人が笑うなんてシチュエーションもその一つ。もちろん、アドレナリンが分泌されれば、本人は気分が良くなる。この快感に味を占めたら、後は常に何か冗談を言う事を考え、それを実践する人間になるって訳。つまりは、ひょうきんものの出来上がり。もちろん、本人が自覚しているかどうかは分からないのだけだ。

だけど、ある日俺は知ったんだ。こいつがプライベートでは、ほとんど親しい友人がいないという事を。皆が呼ばれるような集まりには参加する。でも、二人とか三人とかで出かけるような遊びには付き合わない。いや、付き合わないというよりも、そういう個人的な付き合いがないんだ。それで、そもそも誘われない。

そう思ってそいつを見てみると見方が変わって来た。誰かと一緒にいる時は、いつも緊張をしているように思えた。そして、その緊張感に耐え切れなくなった感じで冗談を言う。

もしかしたら、

と、俺は思った。

こいつは他人を恐れているのかもしれない。そして、その恐怖ゆえに、冗談を言っただけを笑わせて、他人の機嫌取りをする。笑わせれば相手は自分を傷つけないかもしれない。もちろん、そこには快感も含まれてあるだろう。だが、時々、自分が抑えられず暴走に近い感じで冗談を言ってしまうこいつの興奮の根にあるのは、あるいは“恐怖”なのかもしれない。

「冗談を言わなければ、他人は自分を傷つける。だから、必死に冗談を考える…」

その世界は、あるいは、他から見ているよりもよっぽど辛いのかもしれない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3308z/>

冗談依存症

2011年12月11日13時48分発行